

評価指標及び評価基準の見直しについて

評価指標及び評価基準について再検討する。

モニタリング項目	現行		見直し案	
	評価指標	評価基準	評価指標	評価基準
No.7 エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(林野庁 1ha 囲い区)	在来種の種数と種組成、 採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性(高さ・被度など)	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと。	在来種の種数と種組成、 採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性(高さ・被度など)	在来種の種数と種組成：1980 年代の <b>植生の群落機能・構造</b> に近づくこと。
No.8 エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(環境省知床岬囲い区)		ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。		ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。
No.9 密度操作実験対象地域のエゾシカ採食圧調査	在来種の種数と種組成、 採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性(高さ・被度など)	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと。	<b>植生現存量の増加、</b> 在来種の種数と種組成、	<b>植生現存量：1980 年代の状態へ近づくこと。</b> 在来種の種数と種組成：1980 年代の <b>植生の群落機能・構造</b> に近づくこと。
		ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。	採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性(高さ・被度など)	ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。
No.10 エゾシカ及び気候変動等による影響の把握に資する植生調査	在来種の種と種組成、 採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性、 外来種の分布及び個体数、 登山道沿いの踏圧状況、 ハイマツ帯の分布	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと。	在来種の種と種組成、 採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性、 外来種の分布及び個体数、 <u>登山道沿いの踏圧状況、</u>	在来種の種数と種組成：1980 年代の <b>植生の群落機能・構造</b> に近づくこと。 ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。 外来種：根絶、登録時より <b>減少</b> 。 <u>登山道沿いの踏圧：踏圧が拡大していないこと。</u>
		ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。 外来種：根絶、登録時より縮小。 登山道沿いの踏圧：踏圧が拡大していないこと。 ハイマツ：分布や更新状況に著しい変化がないこと。	ハイマツ帯の分布	ハイマツ：分布や更新状況に著しい変化がないこと。
No.11 シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査	分布域と密度	遺産登録時の生育・分布状況の維持	分布域と密度	<del>遺産登録時の</del> 生育・分布状況の維持

モニタリング項目	現行		見直し案	
	評価指標	評価基準	評価指標	評価基準
No.12 エゾシカ越冬群の広域航空カウント	越冬群の個体数	主要越冬地の密度を 1980 年代初頭に並に。	越冬群の個体数	主要越冬地の密度を <b>5 頭/km<sup>2</sup>(1980 年代初頭水準)</b> を目標に減少させる。
No.13 陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況(外来種侵入状況調査含む)	動物相、生息密度、分布	登録時の生息状況・多様性を下回らぬこと。外来種は、根絶、生息情報の最少化。	<b>昆虫相</b> 、生息密度、分布	<b>登録時の生息状況の悪化・多様性の低下</b> が生じないこと。外来種は、根絶、生息情報の最少化。
No.14 陸生鳥類生息状況調査	鳥類相、生息密度、分布	登録時の生息状況・多様性を下回らぬこと。	鳥類相、生息密度、分布	<b>登録時の生息状況の悪化・多様性の低下</b> が生じないこと。
No.15 中小大型哺乳類の生息状況調査(外来種侵入王狭長さ含む)	動物相、生息密度、分布	登録時の生息状況・多様性を下回らぬこと。外来種は、根絶、生息情報の最少化。	<b>哺乳類相</b> 、生息密度、分布	<b>登録時の生息状況の悪化・多様性の低下</b> が生じないこと。外来種は、根絶、生息情報の最少化。
No.16 広域植生図の作成	植物群落の状況、高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の変動	人為的变化を起こさぬこと。 高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の分布が変化していないこと。	植物群落の状況、高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の変動	人為的变化を起こさぬこと。 高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の分布が変化していないこと。
No.⑪エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査(哺乳類の生息状況調査を含む)	単位距離あたりの発見頭数又は指標	1980 年代初頭のレベルかどうか。	単位距離あたりの発見頭数又は指標	<u>1980 年代初頭のレベルかどうか。</u>
No.⑫エゾシカの間引き個体、自然死個体などの体重、妊娠率などの個体群の質の把握に関する調査	間引き個体、自然死個体などの生物学的特性	—	間引き個体、自然死個体などの生物学的特性	—